

静岡市立大谷小学校



出前授業レポート

静岡県埋蔵文化財センター

令和4年5月12日(木)

子ども同士で、対話・協働しながら活動する姿が見られました！

大谷小学校の6年生が、社会科の学習を深めることを目的に、6年部の梅木先生と茂津目先生が出前授業を計画し土器の分類と石器の試し切り、火起こしの3つの体験活動を行いました。

土器の分類体験



縄文時代から古墳時代までの簡単な時代の流れを聞いた後、縄文・弥生・古墳時代の土器の完成品を見ながら、土器片を分類しました。完成品の土器をよく観察したり、触ったり、音を聞いたりしたことで違いがわかり、土器片の分類を進めることができました。

弥生土器と須恵器を見分けることに、ずいぶん悩んだ土器片もありましたが、土器の焼き方の話から、厚さや色の特徴を見分け分類できました。

「焼き方による土器の色や厚さの違いに気づき、学びが深まりました。」

・何千年も前の土器が残っていることに驚きました。
・最初に考えた人はすごい！
・工夫や進化が面白いと思いました。



・普段できない体験ができ、技術の進歩への気づきがありました。

石器の試し切り体験



打製石器や磨製石器の説明を聞いた後、産地が限られた貴重な黒曜石が使われていたことを知り、持参した野菜くずを試し切りしました。黒曜石の切れ味のすごさに驚いていました。

火起こし体験

時々小雨が降る日でしたので、低学年昇降口で火起こしを行いました。登呂遺跡の見学で、何人かは火起こしの体験をしたようですが、ほとんどの子が、初めての体験だったようです。初めは、もみきり法や弓きり法、舞きり法などの火起こしの歴史について学びました。3～4人1班で元気に取り組みました。2人で協力して弾み車を回し、火種を作ることができました。次は「フーフータイム」。火種から火にするまでが意外に大変なんだと感じていました。すばらしい達成感を味わうことができたようです。梅木先生の要望で、火起こしの時間を45分間とったことで、じっくり取り組むことができました。

・全員火がついて良かった。

梅木先生と茂津目先生の感想

「昔の人々の暮らしをより身近に感じることができました。協力が必要だったことや物作りや調理の工夫・苦労を実感することができました。石器の試し切りや火起こしなど子どもの興味に沿った内容でした。写真や実物を示しながら分かりやすく説明していただきました。子ども同士で対話・協働しながら活動する姿が見られ、良かったです。火がついたり、材料が切れたりした時、子どもたちがとても感動していました。貴重な体験学習ありがとうございました。」

